

スポーツ博物館将来構想検討会議における各論点についての主なご意見

〔1. JSC がスポーツ博物館（図書館を含む。）を設置する意義〕

＜検討会議での意見＞

- ・日本のスポーツ界のためにご尽力された秩父宮様のご遺志に報いるためにも、博物館がスポーツの拠点になればと思う。【第1回】
- ・博物館の使命は社会教育の推進。収益性の側面からすると、民営に委ねることは考えられるが、博物館の使命から離れてしまう可能性もある。行政の役目を果たしていくべき。【第1回】
- ・他の博物館との棲み分けは必要。日本で唯一の総合スポーツ博物館・図書館として、スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく必要がある。【第1回】
- ・スポーツ博物館に行けば、日本のスポーツの歴史の大まかなことが分かる資料が見られるため大変貴重。今年度に入ってから、資料の貸出等を取りやめてスポーツ資料が活用できない状態は遺憾。海外でも日本のスポーツ史への関心が高まっており、日本のスポーツの資料をもっと知りたい声があるが、スポーツ博物館を紹介することができない状況である。【第1回】
- ・国（JSC）でなければいけないのか。民間ベースで運用する仕組みも検討の一つ。【第1回】
- ・スポーツ博物館を設置する意義やコンセプトは、前回示された学術団体の要望書に沿った形になっているので良い。【第2回】
- ・博物館というのは設置の意義、そして使命というところを本当に明らかにするのが一番大事ではないかなと思っている。そこからコンセプトに落とし込むと、当然収集範囲ということもある程度明確になってくる。そうするとこのミュージアムをどこに設置すべきなのか、また広さもどうあるべきかというのは、ある程度見えてくると思う。やはり議論しなければならないのは、このミュージアムに何を求めるのか、どういう存在意義をそこで発揮してもらおうのかということ。【第3回】

〔2. コンセプト（趣旨、目的、役割）〕

＜検討会議での意見＞

- ・日本のスポーツ界のためにご尽力された秩父宮様のご遺志に報いるためにも、博物館がスポーツの拠点になればと思う。【第1回】（再掲）
- ・他の博物館との棲み分けは必要。日本で唯一の総合スポーツ博物館・図書館として、スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく必要がある。【第1回】

【回】(再掲)

- ・「スポーツは、世界共通の人類の文化である。」という理念をしっかりと持つことが必要。スポーツ博物館に来れば、スポーツのことが分かると良い。**【第1回】**
- ・長い歴史がある、ということだけでは衰退してしまうこともあるので、時代に合ったスポーツ文化・芸術を作っていくべき。その意味でも、スポーツ博物館に新しい機能が入れれば良い。**【第1回】**
- ・博物館が単体で全てのニーズを満足させることは難しい。ミュージアム同士がネットワークを作って、役割分担をして工夫していくことが必要。それぞれの館のコンセプトを明確化していく。**【第1回】**
- ・博物館の敷居をいかに下げるか。心のバリアフリー化を目指し、行って楽しい博物館であるべき。**【第1回】**
- ・保存・収集も大事だが、例えば富山県美術館は、屋上に子供たちが体を動かせる遊具などが置いてあり、美術館の展示を見なくてもそのまま屋上に行けて、美術館に来ることが目的でない人も来ている。多くの人が来るようにするためには、従来の博物館のイメージの払拭が必要。**【第1回】**
- ・コンセプト、イメージは、もっと見せ方、打ち出し方を工夫すべき。**【第1回】**
- ・博物館は、入るのに敷居が高いイメージがある。入りたくなるような要素、例えばレストランの併設などの検討をすると良い。**【第1回】**
- ・オリンピックを2回開催する東京だからこそ、世界に開かれた、少なくともアジアに開かれた博物館にしていくべきではないかと思う。**【第1回】**
- ・スポーツ博物館に来ればアジアのことも含めてスポーツのことがすべて理解でき、資料も残っていることが大事。**【第1回】**
- ・スポーツ博物館を設置する意義やコンセプトは、前回示された学術団体の要望書に沿った形になっているので良い。**【第2回】(再掲)**
- ・この委員会自体はJSCのスポーツ博物館がどうあるべきか、という議論の前提があり、制約があると思う。JSCのもとで何ができるかというアウトプットを出しつつ、この検討会議で収まりきらない部分については、国にこういうことを考えてほしいという要望があれば検討していきたい。**【第2回】**
- ・国立公文書館でも新館建設に向けて検討しており、広報をどうするかは大きな話題の一つとなっている。先ほど事例に挙げたMieMuも話題に出てきており、子供たちを交えて展示の内容を考えてみる、開館までにどんな博物館にしたいのか？をワークショップを幾度も開催して考えてみるというのは良い取組だと思う。**【第3回】**
- ・コンセプトや意義のところに、スポーツにおける日本のナショナルセンターの役割ということがあったが、「スポーツに関すること」というとすごく広がってしまう。ここで言いたいのは「スポーツ文化」ということではないか。博物館の意味というのは何で、スポーツ文化とは何か、スポーツとは何か、スポーツはどのように発展してきたの

か。スポーツの記録を争うという分野ではなくて、スポーツ文化というように絞っていくと、資料収集のヒントや、なぜそういうものを展示するのかということもかなり明確になってくるのではないかと。もう少し「スポーツ文化」ということを打ち出していったら、分かりやすいのではないかと思う。【第3回】

〔3. 事業内容〕

●全体

＜検討会議での意見＞

- ・私たちが大切にしなければいけないのは、来館者サービス。「博物館に来てよかった」、「楽しかった」、「もう一度行きたい」ということ。博物館の来場者をいかに大切するか。Wi-Fiの導入、週末（金・土曜日）の夜間開館の充実、トーハクキッズデーの実施、託児サービスの実施などを実施している。【第3回】
- ・非来館者調査を実施した結果、東博の「存在を知らない」、「実態を知らない」という結果だった。そのような現状だという認識をもとにアクションプランを立てて取り組んだ結果、ようやく去年100万人を突破した。【第3回】

●収集・保存

＜検討会議での意見＞

- ・メダルなど、実物資料を所蔵していくことが大事。【第1回】
- ・まずは基本となる資料のデータの整理を行い、どのような資料があるのかをデジタルデータにして世界に発信することで、スポーツ博物館にこのような資料がある、ということが分かり、利活用につながる。【第2回】
- ・目録の作成は重要である。国立公文書館では、国民の請求権を確保するため目録はほぼ100%公開している。今どのくらいの資料があるか聞かれたときに、検索できるような状態になっていることが重要。【第2回】
- ・スポーツ庁のオリパラ課で、スポーツデジタルアーカイブの委員会が行われており、IOCとの招致の約束にある、2020東京オリンピック・パラリンピック大会のレガシーをどう残すのか、といったことが議論されてる。スポーツ資料をどう残すのか、ということも共通するので、スポーツ庁の内部で横の連携をしていただきたい。【第2回】
- ・こちらの議論については庁内で情報共有し、スポーツデジタルアーカイブの委員会の動きにも留意しながら、庁内で連携していく。【第2回】
- ・一点物で、衣類などを扱うことは大変。資料を「見せる」、「使う」だけでなく、「保存」や「メンテナンス」の機能をいくつか入れると良い。「デジタルアーカイブ」は利用と保存の両方に活かせるが、やるには、人もお金もかかり覚悟が必要。【第1回】
- ・デジタルアーカイブを考える場合は、目録と画像を分けて考えた方がよい。デジタルア

ーカイブには段階があり、必要な予算や作業も変わってくるので、JSC が実現するサービスの度合いをよく考えて決めた方がよい。【第2回】

- ・デジタルアーカイブ化を進めるには、システムを構築する費用、システムを管理運営する費用、画像又は書誌情報を毎回作成する費用など、一つ一つ費用が発生するため、個別に確認した方がよい。【第2回】
- ・デジタルアーカイブに関して、システムの管理に加えデジタル化の経費だけでも相当の費用がかかる。何をデジタル化するか優先順位を決めるとよい。国立公文書館では利用頻度の高いもの、壊れやすいもの、閲覧室で広げられないもの、優先的にデジタル化する考え方を事前に定めている。【第2回】
- ・JSC が中心となって、競技団体だけでなく、大学、企業スポーツなどにも広げてスポーツ界全体で組織を作り、所有するスポーツの資料について、それぞれが責任を持って歴史やデータ等をホームページなどで公開する。スポーツ博物館がその中心になることで、スポーツ博物館が何でもやるのではなく、競技団体はここまで、スポーツ博物館はここまでと役割を決めることにより、自身でやる仕事が限定されていく。国の第二期スポーツ基本計画にもネットワーク構想が書かれているので、予算を確保して、組織体を作ってほしい。【第2回】
- ・日本スポーツ協会所有の資料の中に古い1964東京オリンピックの資料があり、破棄または保存の判断を JOC に委ねられているため検討している。また、現在の岸記念体育会館から、来年、競技団体が神宮外苑の新しいビルに移転するが、新しいビルには倉庫がないため、競技団体は重要な資料をやむを得ず破棄するのではないかと思う。スポーツ博物館の資料のことだけでなく、日本のスポーツの歴史に関わる資料をこれからどう役割分担しながら残していくのか、発展させながら議論すべきだと思う。【第2回】
- ・日本体育協会（現在の日本スポーツ協会）の百年史を作る際、昔のことが分かる秩父宮記念スポーツ博物館の図書館資料が非常に役立った。今後、スポーツ博物館が拠点として、100年後、200年後も使われるようになればいい。【第1回】
- ・博物館というのは設置の意義、そして使命というところを本当に明らかにするのが一番大事ではないかなと思っている。そこからコンセプトに落とし込むと、当然収集範囲ということもある程度明確になってくる。そうするとこのミュージアムをどこに設置すべきなのか、また広さもどうあるべきかというのは、ある程度見えてくると思う。やはり議論しなければならないのは、このミュージアムに何を求めるのか、どういう存在意義をそこで発揮してもらおうのかということ。【第3回】（再掲）
- ・スポーツ団体が保有する資料の件は、JSC だけの手に余るような問題でもありますし、緊急的にどうするかという、当面の手立てを別途考えなければならないことだと思う。私どもの方でもよく統括団体のお話、実情を伺って、どの手立てが講ぜられるか、まずお話を伺って、できるだけ大事なものが散逸するリスクを少なくする方策を考えたい。【第3回】

●調査研究

<検討会議での意見>

- ・競技スポーツだけではなく、運動会など生活に密着しているスポーツも題材に合っているのでは。【第1回】
- ・イスラム圏では女性が肌を見せられないなど、スポーツを通して世界の国や人がどのように考えているのかという視点も加えると、よりスポーツの価値が高まる。【第1回】
- ・スポーツ博物館に来ればアジアのことも含めてスポーツのことがすべて理解でき、資料も残っているということが大事。【第1回】(再掲)
- ・日本における障がい者スポーツは歴史が浅く、資料も残っていない。学術的な研究の環境が十分整っていないことは今後の課題だと考えている。【第2回】
- ・障がい者スポーツの研究は、まだまだ未開拓な発展性のある分野と捉えるべきだと感じた。【第2回】
- ・日本体育学会には障がい者スポーツの分科会があるので、障がい者スポーツに関する研究も出てきており、関心は高まっている。【第2回】
- ・博物館活動の根幹をなすのは調査研究で、これを支えるのは学芸員である。それゆえにスポーツ博物館においても正規の学芸員の配置が必ず必要である。【第3回】

●展示公開

<検討会議での意見>

- ・「資料の収集、保存だけ」ではなく、資料が持つ価値を公開し、価値観の共有が一番大事。【第1回】
- ・資料の収集を続け、様々なテーマを設けて展示することが重要。日本独自の様々なテーマ設定ができる。日本人の身体観念である「祭り」や、災害や戦争などからの社会の復興にスポーツがどう関わってきたか、という展示をすれば、新しいスポーツの価値を示せる。日本がスポーツに抱いてきた価値などを改めて発見でき、スポーツの素晴らしさは過去の資料を見ることで引き出せる。【第1回】
- ・スポーツ博物館は、訪れた人がスポーツを「やりたくなる」、「こうやったらできる」、「楽しくできる」ことを紹介する形でやっていけば良い。【第1回】
- ・博物館に来て、古いものがあるだけでは、小さな子供は喜ばない。祖父母と孫の組合せが体験できるものなど、新しいものを取り入れるのが良い。富山に、体を動かせる美術館もある。(富山県美術館)【第1回】
- ・海外からの来館は増えており、入館者全体の約3割を占めている。入館料収入にかなり寄与している。【第3回】

●教育普及

<検討会議での意見>

- ・博物館に来て、古いものがあるだけでは、小さな子供は喜ばない。祖父母と孫の組合せが体験できるものなど、新しいものを取り入れるのが良い。富山に、体を動かせる美術館もある。(富山県美術館)【第1回】(再掲)
- ・スポーツ博物館には「スポーツの可能性をさらに広げる関連情報を提供するコンシェルジュ」「スポーツに関する情報に新たな価値を持たせ、イベントなどを通じて情報発信するキュレーションサイト」の2機能を期待している。特に子供を含めた一般向けのイベントなどを通じ、スポーツの普及を充実してほしい。【第2回】
- ・博物館活動において極めて大切なのは教育普及・ボランティア活動である。また、しっかりとした広報戦略を持って館の紹介に当たっていくことが重要である。【第3回】

●交流

<検討会議での意見>

- ・博物館が単体で全てのニーズを満足させることは難しい。ミュージアム同士がネットワークを作って、役割分担をして工夫していくことが必要。それぞれの館のコンセプトを明確化していくべき。【第1回】(再掲)
- ・JSCが中心となって、競技団体だけでなく、大学、企業スポーツなどにも広げてスポーツ界全体で組織を作り、所有するスポーツの資料について、それぞれが責任を持って歴史やデータ等をホームページなどで公開する。スポーツ博物館がその中心になることで、スポーツ博物館が何でもやるのではなく、競技団体はここまで、スポーツ博物館はここまでと役割を決めることにより、自身でやる仕事が限定されていく。国の第二期スポーツ基本計画にもネットワーク構想が書かれているので、予算を確保して、組織体を作ってほしい。【第2回】(再掲)
- ・日本スポーツ協会所有の資料の中に古い1964東京オリンピックの資料があり、破棄または保存の判断をJOCに委ねられているため検討している。また、現在の岸記念体育会館から、来年、競技団体が神宮外苑の新しいビルに移転するが、新しいビルには倉庫がないため、競技団体は重要な資料をやむを得ず破棄するのではないかと思う。スポーツ博物館の資料のことだけでなく、日本のスポーツの歴史に関わる資料をこれからどう役割分担しながら残していくのか、発展させながら議論すべきだと思う。【第2回】(再掲)
- ・オンラインを使うと、スポーツ博物館をよく知らない人にも利用してもらえるチャンスが広がる。ネットワークはいろいろあり、団体のネットワークだけでなく、資料の貸借、人の交流をつかむ仕組みなどを盛り込むと、ネットワークがきめ細やかなものにな

る。【第1回】

- ・JSCが中心となるネットワークとは別に、他のネットワークに加わることも考えた方がよい。スポーツ博物館を知らない人にも知ってもらうことができる。【第2回】
- ・関係機関との連携に関して、国立公文書館では全国公文書館長会議を開催しており、年に1回集まり、デジタルアーカイブや人材育成など大きな枠組でテーマを決め、様々な課題の議論をしている。また、主要な利用者である研究者団体や同じような業務を行っている機関と定期的に情報交換の場を設けている。定期的に顔を合わせる機会を作るのが重要だと考える。研修に関しては、行政機関を対象とした公文書管理研修と、歴史資料や古くなった資料を扱う専門的な方を対象としたアーカイブズ研修を行っている。【第2回】
- ・スポーツ博物館には「スポーツの可能性をさらに広げる関連情報を提供するコンシェルジュ」「スポーツに関する情報に新たな価値を持たせ、イベントなどを通じて情報発信するキュレーションサイト」の2機能を期待している。特に子供を含めた一般向けのイベントなどを通じ、スポーツの普及を充実してほしい。【第2回】（再掲）
- ・我が国の数多くのスポーツ博物館の全体でのネットワークの不在という課題がある。収藏品リストの公開や、各地での展示事業の実例や資料に関する情報を交換し合える横断的なネットワーク構築が必要であると考え。【第3回】
- ・三重県総合博物館は、「みんなで作る博物館」をテーマに、地元の企業との連携ということ活動をひとつの柱としている。財政状況が厳しく予算がカットされたことから、自分たちで稼ぐようなやり方を工夫している。【第3回】
- ・例えば周年行事がある企業の情報があれば、博物館の職員が話をしに行くこともある。博物館側も地域に出て行くことによって企業の話が聞け、また博物館のことも話せる機会につながっている。【第3回】

●図書室

<検討会議での意見>

- ・日本体育協会（現在の日本スポーツ協会）の百年史を作る際、昔のことが分かる秩父宮記念スポーツ博物館の図書館資料が非常に役立った。今後、スポーツ博物館が拠点として、100年後、200年後も使われるようになればいい。【第1回】（再掲）
- ・本来、博物館資料と図書資料の関係は、基本的には博物館資料を調べるために図書資料があるので一体であることが理想。【第2回】

〔4. 設置エリア〕

<検討会議での意見>

- ・設置エリアについては、メリット・デメリット両方ある中で、外苑エリアか代々木エリ

- アがいいと思うが、西が丘エリアとの比較表では議論がしづらい。【第2回】
- ・前回の1964大会同様に2020東京大会を記念したスポーツの聖地として新国立競技場に多くの人を訪れると考えられるので、施設の関連性、来館者の利便性を考慮して、新国立競技場に近い秩父宮ラグビー場にスポーツ博物館を設置してほしい。【第2回】
 - ・JOCはオリンピックに関する展示を中心したミュージアムを来年9月に神宮外苑に開館する。JSCのスポーツ博物館を秩父宮ラグビー場に設置することで、スポーツクラスターとなる神宮の森に来れば、オリンピックのことから日本のスポーツの歴史まで全て分かり、単なる競技施設の集積ではなく、「スポーツに関する文化の集積地」として相乗効果が得られると考える。【第2回】
 - ・JOCがオリンピックミュージアムを開館するので、場所はその近くが良い。【第2回】
 - ・メリット・デメリットを考えた時に、収集・保存、調査研究のエリアと、利活用の部分を切り離すことはできないのか。具体的にモノを展示するなら、神宮外苑エリアしかないと思うが、資料を保存してデジタル化していくのは必ずしも神宮外苑エリアに持ってくる必要はない。【第2回】
 - ・収集・保存、調査研究のエリアと利活用のためのエリアについては、収蔵スペースをなかなか取れないという理由で博物館等を設置する場合のよくあるテーマである。展示替え等もあるので資料が身近にあり、収蔵庫やデータが展示場、研究員、事務担当がいる場所と一体の施設の方が、運営上は好ましい。【第2回】
 - ・独立行政法人である以上は、入場者数が一つの評価となる。人が集まる場所の観点が必要。人が来る、集まるという観点で設置エリアを考えてはどうか。【第1回】
 - ・スポーツをやっている人たちもちろん大事だが、そうではない一般の方々に対してスポーツの価値や文化を広めていくことは、スポーツが世界共通の文化であるというコンセプトにも近づいていく。【第2回】
 - ・本来、博物館資料と図書資料の関係は、基本的には博物館資料を調べるために図書資料があるので一体であることが理想。【第2回】(再掲)
 - ・収入を考える場合、入場料をいくらにするかということも含め、立地条件などによって事業計画などが全て変わってきてしまうので、今日、収入確保策について議論する前に、まずは将来構想の中で、どういう場所にどの程度の規模で行うのか決めなければならないと思う。スポーツ博物館とスポーツ団体の役割分担の骨格を決めるべき。実際に事業収入を増やすために何をするのかといったことは、前提がはっきりしないと話が進みにくいのかな、という感じがする。【第3回】
 - ・私も収入を議論する前に、どこにどういうものを造っていくのか、ということを優先して整理していかないと、イメージが固まらないのではないかという気がしている。【第3回】
 - ・場所と規模を決めて、できるだけ早期に実現に向けて動き出さなければいけないという点は同意できる。その上で、年次計画のフェーズ1では「研究者を交えたワーキング

グループ」とあるが、今後の秩父宮スポーツ博物館を担っていく様々な分野を専門とする学芸員をできるだけ早期に配備し、そして一緒になって創っていくという方向にすることが必要である。【第3回】

- 博物館というのは設置の意義、そして使命というところを本当に明らかにするのが一番大事ではないかなと思っている。そこからコンセプトに落とし込むと、当然収集範囲ということもある程度明確になってくる。そうするとこのミュージアムをどこに設置すべきなのか、また広さもどうあるべきかというのは、ある程度見えてくると思う。やはり議論しなければならないのは、このミュージアムに何を求めるのか、どういう存在意義をそこで発揮してもらおうのかということ。【第3回】（再掲）
- 新しい博物館に全部移してそこからというよりも、どこかに設置しておいて、それで検討した方が、ゆっくりと判断もできるのではないかな。簡単に決まるものではないと思うのでもう少し時間をかけて慎重に対応したほうがいい。予算の関係もあるので、建物は建物で出来上がりはこのぐらいしかできないということもあり、結局はそこに絞っていく。結構手戻りの多い作業になると思うので、そういう形で整理いただくともう少しわかりやすいのではないかな。【第3回】
- 場所とかスペースの大きさとかのご意見は非常に重要な点だと思う。一方で、新国立競技場にしても、神宮外苑地区そのものがどうなるか非常に不確定要素が多いなかで、どこまでのことを描けるか、多少ある程度幅を持ったまとめ方にならざるを得ない部分もある。いずれにしても、こういう選択肢を取ったらこうじゃないかというイメージをやはりある程度具体的に出るように、JSCとよく意思疎通しながら考えたい。【第3回】

〔5. 面積の考え方〕

<検討会議での意見>

- 収入を考える場合、入場料をいくりにするかということも含め、立地条件などによって事業計画などが全て変わってきてしまうので、今日、収入確保策について議論する前に、まずは将来構想の中で、どういう場所にどの程度の規模で行うのか決めなければならないと思う。スポーツ博物館とスポーツ団体の役割分担の骨格を決めるべき。実際に事業収入を増やすために何をするのかといったことは、前提がはっきりしないと話が進みにくいのかな、という感じがする。【第3回】（再掲）
- 私も収入を議論する前に、どこにどういうものを造っていくのか、ということを優先して整理していかないと、イメージが固まらないのではないかなという気がしている。【第3回】（再掲）
- 現在所有している資産をどのように活用していくかにより、その他の様々な事業を検討すれば、例えばミュージアムグッズの販売やその他の商品・サービスを行うには、自

- ずとどのような売り場で、どのくらいの面積が必要なのかも分かってくる。【第3回】
- ・場所と規模を決めて、できるだけ早期に実現に向けて動き出さなければいけないという点は同意できる。その上で、年次計画のフェーズ1では「研究者を交えたワーキンググループ」とあるが、今後の秩父宮スポーツ博物館を担っていく様々な分野を専門とする学芸員をできるだけ早期に配備し、そして一緒になって創っていくという方向にすることが必要である。【第3回】（再掲）
 - ・前のミュージアムでの検討が4,000㎡という話だったので、もしそれが実現できたら、今みたいな資料受入れの話はかなり吸収できるかなという気がした。【第3回】
 - ・全体の延床面積が4,000㎡ということですね。第2回会議の資料で収蔵庫の950㎡という記載がありますが、これだと全然足りないということなので、今のところは吸収できないということではないか。【第3回】
 - ・我々の博物館でも、収蔵庫というのはスペースがどんどん足りなくなってしまうのが現状である。先程のお話を聞いていると、資料が散逸する恐れがあると、これが一番問題なのかなと思う。やはり資料はしっかりと保管管理し、それを整理した上で、国民に対する利活用ということが必要なかなと思う。収蔵庫の面積というのは、全体の建物の規模感に大きくかかわってくると思うので、その辺は展示場とともに慎重に考える必要がある。【第3回】
 - ・面積というのは資料収集の基本的な考え方につながってくるかと思うので、その辺を詰めて行く必要がある。【第3回】
 - ・博物館というのは設置の意義、そして使命というところを本当に明らかにするのが一番大事ではないかなと思っている。そこからコンセプトに落とし込むと、当然収集範囲ということもある程度明確になってくる。そうするとこのミュージアムをどこに設置すべきなのか、また広さもどうあるべきかというのは、ある程度見えてくると思う。やはり議論しなければならないのは、このミュージアムに何を求めるのか、どういう存在意義をそこで発揮してもらおうのかということ。【第3回】（再掲）
 - ・場所とかスペースの大きさとかのご意見は非常に重要な点だと思う。一方で、新国立競技場にしても、神宮外苑地区そのものがどうなるか非常に不確定要素が多いなかで、どこまでのことを描けるか、多少ある程度幅を持ったまとめ方にならざるを得ない部分もある。いずれにしても、こういう選択肢を取ったらこうじゃないかというイメージをやはりある程度具体的に出るように、JSCとよく意思疎通しながら考えたい。【第3回】（再掲）

〔6. 資料収集の基本的考え方と所蔵資料の整理〕

＜検討会議での意見＞

- ・メダルなど、実物資料を所蔵していくことが大事。【第1回】(再掲)
- ・日本障がい者スポーツ協会は当初職員が少なく、資料としての文書、学術的な文書はほとんど収集・保存してこなかった。スポーツ博物館が再開するのを機会に、関係者から文書やモノ資料を集めていかないと状況は変わらない。【第2回】
- ・JSCが中心となって、競技団体だけでなく、大学、企業スポーツなどにも広げてスポーツ界全体で組織を作り、所有するスポーツの資料について、それぞれが責任を持って歴史やデータ等をホームページなどで公開する。スポーツ博物館がその中心になることで、スポーツ博物館が何でもやるのではなく、競技団体はここまで、スポーツ博物館はここまでと役割を決めることにより、自身でやる仕事が限定されていく。国の第二期スポーツ基本計画にもネットワーク構想が書かれているので、予算を確保して、組織体を作ってほしい。【第2回】(再掲)
- ・日本スポーツ協会所有の資料の中に古い1964東京オリンピックの資料があり、破棄または保存の判断をJOCに委ねられているため検討している。また、現在の岸記念体育会館から、来年、競技団体が神宫外苑の新しいビルに移転するが、新しいビルには倉庫がないため、競技団体は重要な資料をやむを得ず破棄するのではないかと思う。スポーツ博物館の資料のことだけでなく、日本のスポーツの歴史に関わる資料をこれからどう役割分担しながら残していくのか、発展させながら議論すべきだと思う。【第2回】(再掲)
- ・事業内容案を見ると総花的にやるべきことが示されている。しかし、まずは資料の収集・保存と調査研究という目録作りに必要なフェーズがあって、目録が整理されてからでないと資料の利活用に入れない。今のスポーツ博物館の状況は、利活用が可能な状況に至っていない。第1期計画、第2期計画など計画をフェーズに区切り、まずはここまでやって資料の利活用が可能な状況にする、次にネットワークを形成できるようにするなど段階を踏んだ計画を立てる必要がある。【第2回】
- ・博物館の資料収集に当たっては、明確でしっかりとした意思をもって取組むことが重要である。様々な分野でどのような資料が不足しているのか、このような目的でこの資料が必要なのだというようなことを明確にしつつ資料を収集し、その重要な資料を幅広く活用するためにしっかりとした保管を心掛けている。【第3回】
- ・各競技団体は多くの資料を持っているが、新しい会館に倉庫がないため、この機会に持っていく場がなくほとんど捨ててしまう可能性が高い。相当の資料がここで散逸してしまう懸念があり、非常に心配している。もし可能であれば、スポーツ庁に音頭を取っていただくなどにより、JOC、JPC、JSCも一緒になって、今年度末ぐらいまでに1回情報交換会のようなものを開いていただいて、資料については散逸しないように役割分担をして保管しようよという話し合いができる場があると良いのではないか。【第3回】
- ・現在、各競技団体は岸記念体育会館の地下に一つずつ倉庫を持っていて、そこに競技団

体の歴史に関する資料を大量に保管していたが、それを新会館にはどうしても確保できなかった。そこで重要資料が相当散逸することが考えられるので、みんなで考えていく必要があるということではないか。【第3回】

- ・資料の中に日本の重要なスポーツの歴史のものが含まれているので、秩父宮記念スポーツ博物館がもしスポーツの総合博物館としての役割を果たしていくのであれば、新しいスポーツ博物館が扱っていくべき資料が相当入っているのではないか。【第3回】
- ・各競技団体の歴史とかプログラムを含めているいろいろな記録などは、各競技団体がちゃんと管理する。それ以外の全体のものとして手に余るものについては、検討いただきたいという考え方である。【第3回】
- ・「スポーツに関連する日本のナショナルセンターの役割を果たしていく」、「日本のスポーツの歴史の概要を知る上で貴重な資料群を活用し、海外を含めて情報発信する」という点について、そのようなミュージアムというものを目指すのであれば、破棄される可能性のある資料をしっかりと確認した上で、このミュージアムで保管・展示していくものをピックアップしていくべき。スポーツ博物館で活用できるものはしっかりと預かって管理していくということをされたほうがいいだろう。【第3回】
- ・面積というのは資料収集の基本的な考え方につながってくるかと思うので、その辺を詰めて行く必要がある。【第3回】（再掲）

〔7. 運営形態（直営、民営など）〕

＜検討会議での意見＞

- ・一人でも多くの方に関心を持ってもらう。国の予算だと資金も限られる。直営だと厳しいので、自由度を上げるために民間に委ねることも検討の一つ。大きな枠を JSC が見ていけばよい。【第1回】
- ・運営形態は、民間事業者に目標数値を示し、企画提案型のような形の業務委託をしているかなければいけないと思う。【第2回】
- ・運営形態は、何らか民間の活力を利用しなければならないだろう。専門的な業務を除けば、業務委託を考えた方がよい。【第2回】
- ・博物館を健全に運営するためには、充実した組織・体制強化が必須である。特に、活動の主軸となる複数の正規学芸員の配備が必要になる。【第3回】
- ・東京国立博物館では、本館のリニューアルを視野に入れた展示事業の充実、来館者を増やすためにインバウンドを始めとする様々な準備を行っている。そのような展示事業を行うに当たって、その根幹として考えなければいけないのは、保存調査研究体制の整備であり、研究員の増員、人事交流の推進などを検討している。【第3回】
- ・博物館活動の根幹をなすのは調査研究で、これを支えるのは学芸員である。それゆえにスポーツ博物館においても正規の学芸員の配置が必ず必要である。【第3回】（再掲）

- ・東京国立博物館の話聞いて、資料を収集・保存・整理し、調査・研究をする専門人材を配置することが不可欠だと思う。それを踏まえて、いかに多くの人に知ってもらうか、利用してもらうかが次の段階に来る。【第3回】
- ・場所と規模を決めて、できるだけ早期に実現に向けて動き出さなければいけないという点は同意できる。その上で、年次計画のフェーズ1では「研究者を交えたワーキンググループ」とあるが、今後の秩父宮スポーツ博物館を担っていく様々な分野を専門とする学芸員をできるだけ早期に配備し、そして一緒になって創っていくという方向にすることが必要である。【第3回】（再掲）
- ・設置場所に関して、場所がどこになろうとも専門人材の育成・体制整備の重要性は変わらないと考える。体制が伴わないと展示を始めとするソフト面の充実が図れない。体制は早々に整備した方が良い。【第3回】

〔8. 名称〕

<検討会議での意見>

- ・歴史的経緯やこれまでの役割を踏まえ、「秩父宮記念」の冠をもったスポーツ博物館としてほしい。【第2回】

〔9. 収入確保策（収支見通し）〕

<検討会議での意見>

- ・博物館は、入るのに敷居が高いイメージがある。入りたくなるような要素、例えばレストランの併設などの検討をすると良い。【第1回】（再掲）
- ・保存、収集も大事だが、人が来るようにするためには、従来のイメージを払拭していかないと。【第1回】（再掲）
- ・休館前のスポーツ博物館の入場者は、平成25年度（約28,000人）を除くととても少ない。平成25年度が当たり前ぐらいで、それ以上を目指さなければならない。【第1回】
- ・過去に実施していたスタジアムツアーは、自分自身参加してみたいと思うし、さらにコンテンツをより良くしていくことも必要。【第1回】
- ・JOCはオリンピックに関する展示を中心したミュージアムを来年9月に神宮外苑に開館する。JSCのスポーツ博物館を秩父宮ラグビー場に設置することで、スポーツクラスターとなる神宮の森に来れば、オリンピックのことから日本のスポーツの歴史まで全て分かり、単なる競技施設の集積ではなく、「スポーツに関する文化の集積地」として相乗効果が得られると考える。【第2回】（再掲）
- ・デジタルアーカイブ化を進めるには、システムを構築する費用、システムを管理運営す

- る費用、画像又は書誌情報を毎回作成する費用など、一つ一つ費用が発生するため、個別に確認した方がよい。【第2回】(再掲)
- ・デジタルアーカイブに関して、システムの管理に加えデジタル化の経費だけでも相当の費用がかかる。何をデジタル化するか優先順位を決めるとよい。国立公文書館では利用頻度の高いもの、壊れやすいもの、閲覧室で広げられないもの、優先的にデジタル化する考え方を事前に定めている。【第2回】(再掲)
 - ・色々コストをかけなければいけないところも多々あるという意見もあった。国家財政が逼迫している中でいろいろな事業についての実現可能性、フィービリティなどをよく考えて、メリハリをつけていかなければいけないのが現実である。総合博物館として様々な事業を実施することは理想として確かに大事だと思う一方で、やはり優先順位、どこを中心に考えるのかという点は、これから先の議論でさらに詰めていただきたい。1期、2期のようなロードマップも考えていかないと、一気に呵成に全ての事業を進めるのは難しいので、着実に理想を目指しながらどうステップを踏んでいくか、ということを議論していただきたい。【第2回】
 - ・博物館活動の中で、入場者収入以外の収入が14.1%ある。これは茶室、講堂の貸出、企業のパーティなど様々なイベント、映画やCMの撮影への貸出など施設の有効活用である。また、東博を会場として他の目的で使ってもらい、ユニークベニューがある。【第3回】
 - ・団体及び個人の会員制度を設けているが、これらの会費によって資料の購入や展覧会の開催なども行われており、賛助会員の皆さんのおかげで資料購入等ができたことを伝えるため、賛助会員向けに報告会や感謝会を行っている。【第3回】
 - ・海外からの来館は増えており、入館者全体の約3割を占めている。入館料収入にかなり寄与している。【第3回】(再掲)
 - ・建物の環境維持のためには莫大な費用がかかっている。温湿度調整や保守など、使っていただくためにはその環境を整える必要がある。【第3回】
 - ・博物館には博物館法というものがあり、入場料について「原則無料」と定められている。無料という大前提で、特例的に「特別な場合にはその限りではない」という一文がある。東博では現在620円(高校生までは平常展は無料)であるが、料金の値上げについて指摘を受けている。【第3回】
 - ・三重県総合博物館は、「みんなで作る博物館」をテーマに、地元の企業との連携ということを活動のひとつの柱としている。財政状況が厳しく予算がカットされたことから、自分たちで稼ぐようなやり方を工夫している。【第3回】(再掲)
 - ・(三重県総合博物館は、) 経営、企画の委員会を設け、地元銀行、新聞社、企業の方を入れて応援を受けながら、開館前から職員が企業を回り、博物館のパートナーシップ会員としての協力依頼を行った。【第3回】
 - ・(三重県総合博物館は、) パートナーシップには3年コースと5年コースがあり、その会

員の特典の1つとして「コーポレーション・デー」というものがある。1日単位で博物館を貸し切りに近い状態にし、そこで自社の紹介やイベントなどを行うことができる制度で、地元の人に地元の企業のことを知ってもらおうと同時に、博物館のことも知ってもらえる。【第3回】

- ・資料で提示された「収入・支出」について、施設整備費や運営費が含まれていない。すべての支出が網羅されているとは思えないので、支出の全体像をどう捉えるか、考え方の整理をした方が良い。【第3回】

〔10. 開館を見通した具体的な年次計画〕

＜検討会議での意見＞

- ・事業内容案を見ると総花的にやるべきことが示されている。しかし、まずは資料の収集・保存と調査研究という目録作りに必要なフェーズがあって、目録が整理されてからでないと資料の利活用に入れない。今のスポーツ博物館の状況は、利活用が可能な状況に至っていない。第1期計画、第2期計画など計画をフェーズに区切り、まずはここまでやって資料の利活用が可能な状況にする、次にネットワークを形成できるようにするなど段階を踏んだ計画を立てる必要がある。【第2回】（再掲）
- ・色々コストをかけなければいけないところも多々あるという意見もあった。国家財政が逼迫している中でいろいろな事業についての実現可能性、フィージビリティなどをよく考えて、メリハリをつけていかなければいけないのが現実である。総合博物館として様々な事業を実施することは理想として確かに大事だと思う一方で、やはり優先順位、どこを中心に考えるのかという点は、これから先の議論でさらに詰めていただきたい。1期、2期のようなロードマップも考えていかないと、一気に全ての事業を進めるのは難しいので、着実に理想を目指しながらどうステップを踏んでいくか、ということを議論していただきたい。【第2回】（再掲）
- ・年次計画については、広報や資金調達計画が記載されていないが、計画に含めた方が良い。【第3回】
- ・物理的に博物館を設置するというハードの部分と、ソフトの部分がうまく整理しきれていないと感じた。何を残してどう整理するか、若干ソフトに近い部分が立ち遅れていた中で、施設の大きさ、場所を議論してしまうと喧嘩してしまうような感じがする。どの資料をどういう方針で、何を残すのか、どんな役割を果たすのかがあって、これは肝じゃないからデジタル化しようなどとなれば、そのための場所だったら別の場所で、倉庫でやっていただくというのも一つの方法ではないか。【第3回】
- ・新しい博物館に全部移してそこからというよりも、どこかに設置しておいて、それで検討した方が、ゆっくりと判断もできるのではないか。簡単に決まるものではないと思うのでもう少し時間をかけて慎重に対応したほうがいい。予算の関係もあるので、建物は

建物で出来上がりはこのぐらいしかできないということもあり、結局はそこに絞っていく。結構手戻りの多い作業になると思うので、そういう形で整理いただくともう少しわかりやすいのではないか。【第3回】（再掲）